

2017年度 シラバス情報表示画面

科目コード : 91513 単位数 : 2

科目名	公民科教育法	科目責任者	宮崎 猛
課題と試験担当教員	宮崎 猛		
履修方法	T テキスト学習		
ナンバリング	CTETC263		

■ 科目概要

本授業で用いる教科書は、高等学校公民科「現代社会」「倫理」「政治経済」の教師を目指す人が、教育実習において学習指導案の作成と実習授業に備えるために書かれたものであります。そのために、実践編では学習指導案作成の要領と、学習指導案の模範例が提示されています。また、理論編では、授業実践の内容を深化し、補完し、発展させるために役立つ情報が提供されています。そして、実践編と理論編の相互による相乗効果も期待できます。

この教科書による学習を通して、教師になるために必要な知識と技能を身に付けるとともに、学習指導案作成の力量を養成します。

■ 到達目標

1. 高等学校公民科の教育内容・授業技術・授業理論などについて理解します。
2. 高等学校公民科学習指導案の作成に資する知識と技能を養成します。

■ 科目の計画・内容

学習範囲 該当する章など	学習内容
第1章	学習指導の理論と実践法
1	学習指導案と授業の計画
2	指導技術の基本
3	教材研究 —教育実習に向けて—
4	情報機器の効果的利用方法 —公民科においてITCをどう生かすべきか—
5	評価の方法 —指導と評価の一体化に向けて—
6	模擬授業
7	教育実習
8	教材の行間を読ませる授業 —考える授業の大切さ—
第2章	実践編
1	青年期の授業実践例を参照し、学習指導案を作成する —「現代社会」—
2	環境問題の授業実践例 —「現代社会」—
3	情報社会の授業実践例を参照し、学習指導案を作成する —「現代社会」—
4	日本政治の授業実践例を参照し、学習指導案を作成する —「政治・経済」—
5	日本経済の授業実践例を参照し、学習指導案を作成する —「現代社会」—
6	社会福祉の授業実践例を参照し、学習指導案を作成する —「政治・経済」—
7	源流思想の授業実践例を参照し、学習指導案を作成する —「倫理」—
8	生命倫理の授業実践例を参照し、学習指導案を作成する —「倫理」—
9	国際政治の授業実践例を参照し、学習指導案を作成する —「政治・経済」—
10	国際経済の授業実践例を参照し、学習指導案を作成する —「政治・経済」—
第3章	理論編
1	「持続可能な発展のための10年」(ESD)を参照し、公民科が扱う現代的な課題について、授業構想を作成する。
2	

学習範囲 該当する章など	学習内容
3 4	死への準備教育（デスエデュケーション） 共生の教育を参照し、公民科が扱う現代的な課題について、授業構想を作成する。
5 6	金融教育 国際理解教育 –「持続可能な社会」の実現に向けて–を参照し、公民科が扱う現代的な課題について、授業構想を作成する。
7 8	平和教育 情報教育 –情報モラルとメディアリテラシーの育成に向けて–を参照し、公民科が扱う現代的な課題について、授業構想を作成する。
9 10	社会参加のあり方 –デューイ、オルセン、サービス・ラーニング、ならびに法教育に着目してを参照し、公民科が扱う現代的な課題について、授業構想を作成する。
11	市民性教育を参照し、公民科が扱う現代的な課題について、授業構想を作成する。

■ 学習方法・評価

種別	評価基準
試験	まず、教科書で試験範囲を正しく把握します。それを踏まえて、試験範囲の内容をよく理解しながら、熟読して下さい。しかも試験範囲のどこから出題されても解答できるように、試験範囲をしっかり読みましょう。決して山をかけないように。試験勉強を通して、教師になるために必要な知識と技能を確実に身に付けるのだという気持ちで臨むとよいです。 教科書の内容について、その理解と習得を問います。
レポート	レポートを作成する際に最も大切なことは、与えられた課題の題意をしっかり把握することです。課題が何を求めているのか、正しく認識し、それに対応した論理構成でレポートを組み立てていきます。なかには、これが不十分のいわゆる「的外れのレポート」が時々見受けられます。 次に、大切なことは、自分の言葉で綴るといことです。教科書の該当する箇所をそのまま丸写しにしたものや、教科書や参考書の文章を切り貼りした継ぎはぎのものがありますが、いくら課題の題意を把握していても、レポートの価値はなくなってしまいます。平易な表現でもよいですから、内容をしっかり理解して自分なりの表現や言葉づかいでまとめて下さい。 さらに、大切なことは下書きの段階で十分推敲を行うことです。下書きをよく読み、レポートを何回もチェックしましょう。推敲を何度も行うことによって、レポートを書くことに慣れ、また、レポートの完成度が高くなります。推敲の時間も十分取るように心掛けましょう。

■ 評価方法

- 科目試験：70%
- レポート：30%

■ 教科書

書名：新しい公民科教育の実践と理論－公民科教育法－
著者名：宮崎猛他
出版社名：清水書院
出版年：2011.3
版：第1版
刷：
ISBN：978-4-389-22563-6

■ 参考書

各項目の末尾に参考文献が挙げてあります。必要に応じて、利用して下さい。

■ 履修上のアドバイス

教科書を丁寧に読み、わからない語句や用語がないように辞書などでよく調べ、その上で内容全体も正確に把握して下さい。大切なことは、通読のレベルにとどまらず精読することです。

■ 自習時間

個人差がありますが、レポート1課題あたりの作成に20時間程度、科目試験の勉強に40時間程度が考えられます。

■ 担当者のプロフィール

創価大学法学部卒、早稲田大学博士課程単位取得退学、教育学修士、国際政治学修士、高校教員（公民科「政治・経済」担当）、早稲田大学非常勤講師、創価大学教育学部准教授、インディアナ大学客員研究員等を経て現職